

「紹介」

甕島巡検会について：事前に現地を下見して

鶴田 孝三*

はじめに

熊本地学会の令和3年度第1回巡検会は、8月7日・8日に鹿児島県の甕島に分布する上部白亜系姫浦層群の観察を中心に実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染者の急激な増加に伴い、実施日直前に中止することになった。

巡検会の開催にあたり、講師の熊本大学大学院自然科学科教授小松俊文先生、甕ミュージアム恐竜化石等準備室の三宅優佳学芸員及び山下大輔学芸員には、巡検会資料の作成など事前に準備をしていただいた。また、当日は14人の参加希望者があり開催を心待ちにしていたところである。

今回の中止に伴い上記の方々はもちろんのこと、2年前から計画に携わってきた熊本地学会の関係役員にはご迷惑をおかけしたが、コロナの終息を期待して次年度は甕島巡検会をあらためて開催したいと考えている。

なお、巡検会に先立ち、講師の先生との事前の打合わせをかねて、去る4月15・16日に会長及び事務局の2名で現地を訪れた。当初は打合せを終えた後、島内の下見と甕ミュージアムの見学を我々のみで行う予定であったが、打合せを終えた後は、三宅学芸員が我々に同行してくださり、下甕島北部の鹿島町を出発し中甕島・上甕島に至るルートの主な露頭や地形等の案内をしていただいた。さらに翌日は甕ミュージアムの展示物の紹介をしていただいた。公務多用な中、時間をさいてくださり心から感謝申し上げたい。とともに、熊本地学会の巡検に熱意を持ってかわっていただけたことを確信した。

2日間にわたる事前の下見を通して、甕島の地質のすばらしさを味わうことができた。そこで、次年度甕島巡検会を開催するにあたり、甕島の素晴らしさの一端を会員に伝えることで、参加意欲を高めていただく一助になればと思い、今回下見の報告をここに行うに至った。

なお、巡検会を前にした報告のため、詳説はさけることとし、あくまでもさわりの部分のみの報告とすることを申し添える。

行 程

4月15日

11:20 串木野新港発フェリーニューこしきに乗船

※ 上甕島里港～鹿島港間は、フェリーから姫浦層群の露頭や鹿の子大橋、甕大橋等の景観を遠望

13:35 下甕島鹿島港下船

14:00 薩摩川内市鹿島支所にて、三宅優佳学芸員及び山下大輔学芸員と事前打合せ

15:30 現地視察（案内：三宅学芸員）

18:30 宿泊地到着（鹿島町蘭牟田 民宿きくや）

4月16日

8:45 甕ミュージアム恐竜化石等準備室見学（案内：三宅学芸員）

10:15 鹿島港以南の下甕島散策（下見参加者のみ）

14:35 長浜港発フェリーニューこしきに乗船

16:15 串木野新港到着

おもな訪問地の紹介

下甕島鹿島地域北西部夜萩門山公園

この地域の展望台付近を訪れ、姫浦層群U-II aがつくる高さ170 m以上の壮大な断崖（鹿島断崖）に圧倒された。また、展望台付近には大型斜交層理トラフ型斜交層理の発達した砂岩と、細粒砂岩や泥岩の互層などが分布していることや、50 cmから2 m程のレンズ状の貝殻密集層が存在するとの説明を受けた。実際に付近の転石には、*Loxo japonica* や *Yaadia japonica* などの二枚貝化石が含まれていた。



図1 鹿島断崖。

* 熊本県宇土市宮庄町 71 - 16
2021 年 10 月 26 日受付, 2021 年 11 月 10 日受理



図2 転石の中に見られるヤーディア.



図5 化石の密集の状況.



図3 展望所と海岸への道.



図4 姫浦層群U-II aの露頭.

下甕島北端鳥ノ巣山展望所

中甕島につながる平瀬崎にある展望所からは、眼下に甕大橋をのぞむことができる。当日我々は、展望台と海岸を結ぶ急な歩道をひたすら下り、姫浦層群U-II aがつくる様々な露頭の案内を受けた。ここでは、鹿島断崖で見られた地層のうち、主に下部を観察することになる。ハンモック状斜交層理を伴う砂岩と泥岩の互層や、ロクソやグリキメリスなどの化石の密集帯や、生痕化石を近くで観察することができた。

上甕島里町のトンボロ

上甕島北東部の高台には、沿岸流と波の作用によって、



図6 鳥ノ巣山展望所.



図7 展望所から眺めた甕大橋、全長1533 m.

海底の砂礫が水面上に現れた細長い地形のトンボロ（陸繋砂州）を一望できるスポットがある。

このトンボロの全長は南北方向に約1500 mあり、最大幅も1000 mに及ぶ。



図8 トンボロの全形と里町の集落。



図9 集落の東海岸(右側)に里港がある。



図10 長目の浜展望所からみた長目の浜、大小3つの池と4 kmの砂州が見える。



図11 なまこ池。



図12 貝池。



図13 長目の浜の砂州から里方向を見る。



図14 砂州にはハマエンドウなどの海浜植物が自生。

里町の中心は島と島をつなぐ低い陸地の上にあり、串木野新港からやってくるフェリーの最初の寄港地である里港もここにある。

上甕島上甕町の長目の浜展望所

上甕島北部のこの展望所からは、西の方向に長目の浜と命名される海を仕切る約4 kmの砂州と、なまこ池・貝池・鯉崎池の大小3つの池が見られる。展望所を下るとなまこ池と貝池の境のせまい空間に駐車場があり、近くで両池を観察することができる。また、駐車場の北側の海岸には徒歩で簡単に移動でき、そこからはトンボロでできた里町の地形を横から見ることもできた。



図 15 薩摩川内市鹿島支所.



図 16 ミュージアム 1 階展示室.



図 18 甕島産出恐竜化石の展示ブース.



図 17 館内の展示風景.



図 19 貝化石の展示.

貝池は16.2ヘクタール、水深は最も深いところで11.6 m。表面に近いところは周囲から流入した雨水のため低塩分の水であるが、底の方には主に春から夏にかけて侵入した海水層が停滞している。これらの水層の境には20 cmの厚さで光合成細菌が停滞しており、赤紫色の層がカーペット状に存在しているとのことであった。

一方なまこ池は、最深部で24 mあり長目の浜の岩石のすき間から海水が常時侵入しており、湖水面の高さが潮の干満に応じて海面との時間差はあるものの変化していると説明を受けた。

甌ミュージアム恐竜化石等準備室

今回の下見でフェリーを下船した下甌島の鹿島港から徒歩5分の場所に、薩摩川内市鹿島支所があり、支所内に甌島各地から産出した化石の展示室がある。我々は二日目の午前中にここを訪れお二人の学芸員から説明を受けた。

この施設には「準備室」の名称が付けられていたが、数多くの貴重な展示標本があり、しかもあらゆる世代の参観者に興味を引くような展示方法に工夫がなされており、見事な博物館であった。また複数の学芸員や化石クリーニングの専門家が常駐し、島内外に地質や化石に関する新しい情報を絶えず発信している。

入館するとまず目につくのは、サウロロフス、プロトケラトプス、マラウイサウルスなどの海外産出恐竜の骨格標本で、一部に上甌島で発見されたハドロサウルス類の大腿骨のレプリカも発見当時の産出状況を再現した形で展示されていた。

2階の展示スペースには、2008年鹿島地域で獣脚類恐竜の歯や肋骨が見つかって以来、甌島で見つかった

数々の恐竜化石に加え、ワニやカメなどの脊椎動物や、姫浦層群産の無脊椎動物（アンモナイト・二枚貝・ウニ・サンゴ・放散虫など）の化石も多数展示されている。さらに2階では化石のクリーニング作業の様子も見学することができる。

おわりに

甌島訪問の二日目は、ミュージアムを見学した後、お二人の学芸員と別れ、下甌島を南下し、武家屋敷や「おふくろさん」の歌碑がある手打ち海岸まで足を伸ばした。

今回の下見では、巡検会で小松先生にご案内いただくようになっていた恐竜化石の採集地の見学や海上タクシーからの地層観察は行っていない。来年に実施予定の巡検まで、会員のみなさんととともに楽しみに待ちたいと思う。

なお、巡検会当日に使用することになっていた資料については、ペーパーとデータを事務局で所持している。もし来年巡検会に参加するにあたり、事前に予習をしたいという会員があれば、事務局に問い合わせをしてほしい。

文 献

小松俊文・三宅優佳・真鍋 真・平山 廉・藪本美孝・對比弛 孝亘, 2014. 甌島列島に分布する上部白亜系姫浦層群の層序と化石及び堆積環境. 地質学雑誌, 120 (補遺), 19-39.

薩摩川内市, 2020. 甌島観光ガイド (改訂版).

甌ミュージアム恐竜化石準備室, 2020. リーフレット. 薩摩川内市鹿島支所.